

ちょうふの自然だより(ニュースレター) が50号を迎えました



記念すべき第1号

調布の自然だより(ニュースレター)第50号の発刊おめでとうございます。振り返ってみると、多摩川センターの坂本さんの個人的努力により始まったことでした。当初は各活動のお知らせみたいなものだったと思います。活動が活発になると内容的にも充実したものが求められ(勝手に思っていたのかもしれませんが)、私も「窓からの風景」というコーナーを担当しました。題名は自宅の窓から見える琥珀神社の林からつけたもので、コーナーのタイトルではなかったのですが、コーナー名となってしまったものです。毎月楽しませてもらいましたが、これからもこの便りが長く続くよう期待します。(小豆畑)

こどもエコクラブ「春の七草寄せ植えづくり」(12・18)

12月とはいえ気温は15度を超え絶好の活動日和。はじめは直径15センチもある孟宗竹をのこぎりで切断し寄せ植えの器作りです。太い竹を切る作業はとても重労働で「竹が切れないで息が切れる」との言葉に爆笑。苦勞しながらも器作りが完成し、七草の採集に佐須児童館西側のたんぼで採取したナズナ・ハコベ・ゴギョウを手で深大寺の自然広場に移動し、寄せ植えづくりの開始です。スズシロ(ダイコン)、スズナ(カブ)、ホトケノザ、セリは小池講師から提供されました。

さきほど自分たちで採取した3種類をバランスよく配置し、これで「春の七草寄せ植え」の完成です。最後にみずやりなどの管理の仕方を教わり、「1月7日の朝に七草がゆを食べれば家族全員が健康で1年を過ごすことができる」との話聞き、こどもたちは出来上がった寄せ植えを手で深大寺自然広場をあとにしました。



調布の自然 生き物編 その10 ツグミさんどこにいるの？

調布市は深大寺周辺や若葉町周辺に代表される緑の多い高台と多摩川や野川に代表される水の豊かな環境があり、都心に近い割にはおとずれる野鳥の種類数も比較的多いようですが近年は目に見えて減少しているような気がします。これからの季節は冬鳥として飛来してきた野鳥の観察には良い時期ですから自然環境の変化を感じる為にも外へ出てバードウォッチングすることをオススメします。

- 多摩川や野川ではオナガガモ・ヒドリガモ(頭が刈-藍色)・イカルチドリ・カンムリカイツブリ(首が長くモヒカン頭)
- 林や畑・野原ではツグミ・シロハラ・アカハラ・ジョウビタキ(腰に白い紋付があり、アンテナによくとまる)・ルリビタキ(瑠璃色の羽とクリッとした目がかわいい)



ホトトギスの仲間

今年はツグミが少ないようです。11/7 多摩川ベリで渡りの途中と思われるホトトギスの仲間を確認。時期が遅いのは台風のせいと考えられます。堰の上には数百のカワウがとまっています。河川敷ではラジコン飛行機を数羽のカラスが威嚇していました。『自然との共生』と言葉でいうのは簡単ですが・・・(里)

入間・樹林の会



12月19日、自治会からの客人を含め15人が参加してのお楽しみ会を駐車場横の広場（落ち葉ふかふかの斜面を急遽造成）で行いました。前日に作ったトン汁、樹林地のマテバシイのクッキーとお団子、アマチャズルのお茶は好評でした。2月の全体会で再度、入間・樹林の会からは、アマチャズル茶をふるまおうということにもなりました。暖かい1日でしたが、午後になると、さすがに火が恋しくなります。

火を囲みながらお餅やジャガバターなどを焼きながら、今日は参加できないけどとわざわざ届けてくださったもちよりのワインやお酒などで舌づつみをうち、話が盛り上がりました。

杉の木を切ったら富士山が見えるかも知れないから伐採しよう、西側樹林地をもっと整備しよう、子どもたちが樹林地にもっと出入りできるようにしたいねなど積極的な意見もでていました。シャガの群生地への道筋をつけることや、落ち葉はきの保全作業も必要です。できるところから、できる力をだしあって、少しずつ整備していければよいと思いますが、地域の人たちの力も必要です。もう少し、樹林の会が広がればと来年に期待して散会しました。1月は、方形柵調査と保全作業です。多くのご参加お待ちしております。（あべ）

雑木林塾 第3回講座

12 / 11 (土) 晴れ 参加者10名
講師 小池弘志 先生
AM 都立桜ヶ丘公園萌芽更新区の見学
PM 一本杉公園の炭焼き見学

午前10時京王線聖跡桜ヶ丘駅集合、バスにて桜ヶ丘公園へ、聖跡記念館を巡りいざ「こならの丘」の萌芽更新区へ、途中萌芽更新された所の説明がありました。幹を切り萌芽更新の促進を狙ったが、光が入るとアズマネ笹が繁殖し場所によっては2mにも達し、コナラやカシ類の成長を阻害したり実生の苗の育ちが遅くなったりしているとのこと。更新作業現場では、ボランティアの方々が、有用な樹種を守る為、機械ではなく鎌を用いて人手でアズマネ笹を除去していました。人間が希望する形で残す為に里山や雑木林の保全活動されているボランティアのご苦労には頭が下がりました。



萌芽更新地区

その後、小池先生の奥様の車で参加者全員を一本杉公園に移送戴きました。一本杉公園では、関係者並びにボランティアの方々が午前中より炭焼きを始めていました。説明では、多摩市で伐採されたカシやクヌギその他炭にする木々に限り炭焼き施設に運び込まれ、外部地域の木々は受け容れないとの事でした。木々を炭に焼く事で植物としての役割は一応終わりになりますが、この炭の利用先や提供先探しに、少々苦労しているとの事。昔なら燃料として活用されたが、現在では燃料の他、脱臭剤や防腐剤、家の床下のシロアリ防除剤や川の汚濁水清浄化に活用されているとの事でした。しかし多く自治体では炭焼きそのものが、規制や住民のクレームがある為出来ない状態との事でした。昔は里山や雑木林の木々の活用の一つであった炭焼きが無くなり、単純にゴミとして焼却される事は残念です。



炭焼き窯の前で

小春日和の中、多摩市指定有形文化財の古民家を見ながら昼食。食後、ロープワークの講習を楽しく受けました。終了に際し、調布でも炭が焼ければとの感想意見が複数挙っていました。最後に小池先生を始め奥様、並びにお世話戴いた多摩市のボランティアの方々誠にありがとうございました。（村木）

第1回自主活動

12 / 12 (日) 雨 6名参加 10:00~16:00

カニ山全体の主な植生を観察しながら白地図に書き込む。その後今後の管理方針について話し合い。

「多様な生態系・人々の親しめる明るい林」などの言葉が出た。もう1度きちんと現状把握をするために、東地区の樹木マップの作成 笹を刈る前に処分場所（落ち葉溜め）を確保する。自主活動グループが保全管理をしていることを近隣と訪れた人にアピールするため、早めに看板を設置する。等が決まった。

次回は新春草々1月9日10:00野草園前集合。再度話し合いをし、笹溜めの確保と笹刈りも。

環境モニター

12/4(土)曇り

多摩川二ヶ領上河原堰の堤防植物調査

参加者 9名(多摩川センター及び職員含)

多摩川の二ヶ領上河原堰の堤防で、植物観察と記録の活動をしました。観察できた植物は全部で約50種類でした。

この日は、植物の冬の姿「ロゼット」(冬の風や寒さから身を守るために葉を地面に貼り付けるように広げた形)になったメマツヨイグサやコウゾリナを観察することができました。季節がら、やはり花の数は少なく、コセンダングサや狂い咲きのようなコマツヨイグサなど、5種類程度が花をつけているのみでした。観察をしながらノイバラの赤い実を食べてみたところ、種は多いもののハーブティーの「ローズヒップ」そっくりの香りとするばい味で、意外な多摩川の味覚を発見することができました。また厳しい冬の景色の中に、よく探すと小さな春の野草の芽生えを見ることもでき、野草のたくましさを実感した回でした。

次回1月8日(土)は植物観察と記録の他、今まで作り溜めてきた植物の標本を台紙に貼り、2月の全体会で発表する準備をします。また、今まで撮った植物の写真などを持ち寄り、観察のまとめ作成に向けて計画をたてる予定です。(羽生田)



ちょうふDE田んぼ日記

その19

豊年を念じて

気候の関係で全てが遅れ遅れになった感じですが、ようやく去年の畑仕事が終わりました。新米の収穫祭なども無事終了。カニ山の紅葉もつい最近まで楽しめるほど、温かい日が続くなか、また今年の実りを願って、こつこつと準備を始めています。

12月19日は、「田んぼの学校」最後の授業となる、堆肥作りの作業でした。カニ山でコナラやケヤキなどからたくさんの落ち葉を集めました。子供たちは落ち葉の山に飛び込んだり、集めた袋の上に座り込んだりとその感触を楽しんでいました。

ちょっと注意したいのは、エゴノキの落ち葉で越冬するゴマダラチョウの幼虫を採らないことです。カニ山の休憩広場とキャンプ場そして自然広場はゴマダラチョウの貴重な生息場所でもあります。(知る人ぞ知る農業高校の小池先生から中原さん伝に言われなければ忘れるところでした。)

さて、こうして集めた落ち葉を田んぼに持ち帰って堆肥を作ります。積み重ねて水を掻け、鶏糞や籾殻、米ぬかなどを混ぜます。これから、ときどき空気を入れる天地返しの作業をして、半年以上かけて醗酵させ、肥料にしていきます。

この堆肥はさまざま生き物の暮らす場所でもあります。醗酵が順調に進むと堆肥の中は60度近い高温になり、冬でも湯気が立ち上るほどです。良い土を作ってくれるミミズやカブトムシ、その他のいろいろな虫たちの住処となっています。

冬の田んぼにはレンゲや春の七草などが芽を出し、これから春に向けて、生命力にあふれ、いろいろな草が生い茂るようになります。また今年もたくさんの人との出会いがあり、多くの生き物がみられ、豊作であることを祈ります。今年ももっと年中行事を再現したいなどと思いつつ、正月に一の鍬を入れに行きます。(田んぼの学校 こんどう)



多摩川を泳ぐトモエガモ?

リレーエッセイ

(保全課職員担当)

10月環境保全課に異動になりました。環境保全係で「雨水浸透ます」の設置のお願いに廻っております。昔は枯れることがなかった川が、渇水期には流れがなくなり、河川本来の姿を失ってきています。昔のように豊かな湧き水を復活させ、河川の治水対策等のために始めたのが、「雨水浸透ます」の設置助成制度です。設置の条件として雨といわき縦・横1メートルの空地が必要になりますが、条件を満たした家屋が非常に少なく、また留守宅には、お願いのパンフレットをポストに投函しておりますが、なかなか反響がなく苦慮しております。また、設置には野川の北側という対象地域はありますが、皆様のご協力をお願いします。

(中西)

イベント情報

環境モニター

日時：1月8日(土) 10:00~12:00
 場所：みんなの広場南土手ベンチ付近集合
 内容：植物調査と標本作成
 持ち物：ルーペ、ビニール袋、スコップ
 カメラ、図鑑等

雑木林塾第4回講座

日時：1月16日(日) 9:30~15:00
 場所：入間地域福祉センター集合
 内容：樹林の保管理をするために
 AM 入間樹林活動へ参加
 PM 講座~活動を支えるための準備~
 持ち物：作業用服装、飲み物、昼食等

雑木林塾自主活動

日時：1月9日(日) 10:00~
 場所：野草園前
 内容：フィールド管理の話合いと笹溜め確保
 持ち物：作業用の服装

入間樹林の会

日時：1月16日(日) 9:30~12:30
 場所：入間地域福祉センター・樹林地
 内容：方形枠調査
 持ち物：作業用服装

楽しみながら保全活動をしてみませんか。
 上記イベントに参加希望の方は市役所保全課までお問い合わせください。
 また、環境市民懇談会メーリングリストについては、尾辻 kp5y-otj@asahi-net.or.jp まで御連絡ください。

【編集後記】

あっという間の50号でした。市民との協働での環境保全活動や調布の自然環境の情報交換の場としてニュースレターは発足しました。皆様の情報が紙面をつくります。見たこと感じたこと、今後の紙面づくりなど御意見をお寄せください。(編集一同)

第4回全体会のお知らせ

2005年2月19日(土) 10時~16時
 場所：たづくり11階みんなの広場

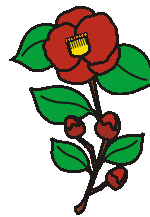
自然環境活動に関心のある調布市民・団体・事業者を対象にして、各活動団体の展示発表を行います。

キクイモ、アマチャヅルのお茶、マテバシイの団子などが試食できます。

ほかに、シュロ縄づくり、シュロのバツタづくり、丸太切りなどの体験コーナーも準備しています。

ご参加をお待ちしています。

(ちょうふ環境市民懇談会運営委員会)



12月の山茶花

10月頃から咲き始めたサザンカ、花の少ないこの時期に目立ちます。元々九州の方に自生している植物です。今年は暖かさのためが特に当たり年のようです。

<会議のスケジュール>

日時	場所	活動名/内容
1月6日(木) 18:30~20:30	たづくり3階・302	環境市民懇談会運営会議
1月20日(木) 18:30~20:30	たづくり3階・301会議室	環境市民懇談会連絡会議
1月24日(月) 13:30~17:00	市役所3階 環境部会議室	ニュースレター編集・次号企画

ちょうふ環境市民懇談会は、調布の自然環境を保全・改善・回復していくために、「話し合いの場や、活動の交流・支援、人材育成、啓発活動、情報の収集や発信」といった活動をパートナーシップをもとに進めていくことを目的に設立されました。ぜひ、様々な環境保全活動へ参加してください。

お問合せ先：調布市環境部環境保全課
 TEL：0424-81-7086

E-mail：kankyuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

発行：ちょうふ環境市民懇談会